

評価低下で
収入減の原因
黒点病対策で
考慮すべきこと

黒点病は糸状菌で、雨水によって胞子が拡散し、気孔等から侵入して病斑を作ります。6月～9月までは定期防除で薬剤が指定されていますが、今季は降雨が多そうなので、指針のスケジュールではなく、1か月もしくは降雨200mmを目安に次回の防除を行います。簡易の雨量計や気象庁ホームページ等から雨量をチェックします。

7月末頃までは上島町の皆さんも防除暦に従って防除をされますが、8月以降は防除を控える傾向にあります。しかし昨今は晩秋季も気温が高く、11月いっぱいには感染の可能性があり、予防のため10月末に最終防除を行う必要が出て



きました。ジマンダイセン（ペンコゼブ）年間4回、Mダイファア年間2回の使用制限の中で、盆明け、9月中～下旬、10月中～下旬で防除を行ってください。回数を満了した、または収穫期が近づきつつある場合には、ストロビーの2,000倍を利用してください。

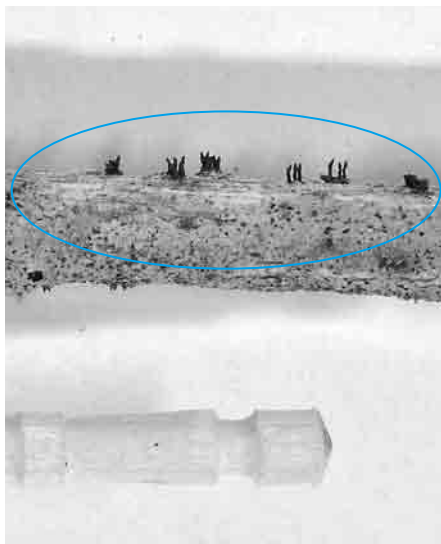


写真2…枯枝上に形成された柄子殻
ここから降雨ごとに柄胞子を排出します。
枯枝処理が重要な理由。
下は大きな比較のための爪楊枝の頭



写真1：春葉上の病斑
このような黒い染みも黒点病です。

[illegible]